

塩尻に医療と福祉 2施設

塩尻市に1日、医療と福祉の新たな拠点がそれぞれ誕生した。宗賀の桔梗ヶ原病院は県が指定する「認知症疾患医療センター」を院内に設置。峰原には老人福祉センター「みどりの郷」を増改築した地域福祉推進拠点施設「ふれあいセンター東部」が開所した。

医療センターは認知症の早期発見、診断を狙う。基本はかかりつけ医の紹介状で診療に当たるが、電話相談も受ける。スタッフは専門医や臨床心理士ら6人。問診や検査を行って生活上の助言をする他、福祉制度の説明もする。

同センターは松本、木曾の両医療圏をカバーする。松本医療圏では城西病院（松本市）が指定されているが、木曾では初。他、誰でも使える浴室や会議室

「認知症疾患医療センター」

早期発見や診断を狙う



認知症疾患医療センターを開設した桔梗ヶ原病院

「ふれあいセンター東部」 地域の福祉推進拠点に

も設けた。市社会福祉協議会が指定管理者として運営する。三溝育子所長（46）は「東部地域から元気な人を増やしていきたい。健康づくり教室などさまざまな企画を考えたい」。併設する塩尻東保育園の園児とセンター利用者の世代間交流も考えているという。浴室利用は9日から。



新たに開所したふれあいセンター東部の交流ロビー